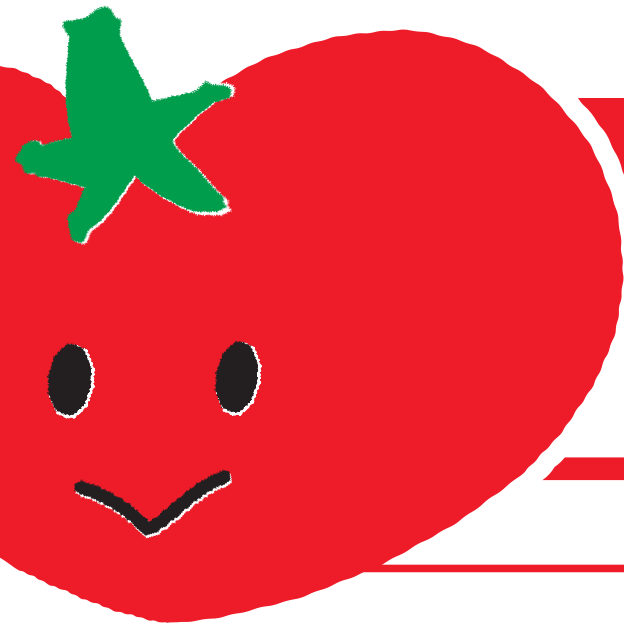


とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2010.1 January vol.12



人の命をつなぐ 互いに支え合う政治に

平成21年11月定例島根県議会が11月25日から12月15日まで開催され、新規就業者確保の支援や雇用創出支援、高校生就学支援などの経済対策を盛り込んだ補正予算、職員の給与改定条例、公の施設の指定管理者の新たな期間における指定を定めた条例などを可決しました。私の一般質問について以下報告します。

高校中退者への支援

ほとんどの子どもたちは夢や希望を持って高校へ進学しますが、残念ながら高校になじめず、不登校やあるいは中途退学してしまつ子どもたちもいます。将来は社会の中で生活していかなければなりません。高校に行けなくなつても子どもたちが地域の中で暮らしていけるよう支援が必要です。義務教育では子どもたちが修了まで学べるよういろいろなカウンセリング

やサポート体制の仕組みができていますが、義務教育を卒業して高校へ行ったとき、あるいは高校を中退したときの支援体制を充実させなければなりません。

●高校を中途で退学する生徒の状況と今後の進路について
向う。

●教育長 中途退学の数は、20年度、公立学校の場合で158人で、経年的には減少傾向にある。中途退学後の進路は、進路

変更が一番多く97人、学校の転学が14、就職が67で、その他自宅待機、あるいは把握できていないものもあり、学校生活とか学業の不適応というのがあり、進路変更が43%、それ以外の不適応が約33%となっている。

●子どもたちへのいろいろな支援がつけられているが、貫いた形で支援ができないかと思えるが、どうお考えか。
知事 それぞれの段階で子どもが健全に育つようにするとい

うことが必要。家庭の問題もあり、それを支援するための地域の活動もある。学校での相談の体制、学校での対応もある。行政としても、いろんな部署がそれぞれ協力し合つて対応しなければならぬし、地域社会あるいは企業、全体として取り組む体制を築いていかなければならない。地道な努力をすると同時に、社会の関心も高めるようなこともやっていかなければならない。あらゆる手段、方法を活用しながら努力をし、全力を挙げてやっていく必要があると考えている。

自死をなくす努力を

全国で毎年3万人の人が、そして島根では3日に2人が自ら命を絶つということが起きています。この自死の対策についても、地域全体の取り組みが非常に大事です。地域で気づき、声かけできる体制づくり、いわゆる気づきのゲートキーパーの養成も非常に大きなこれから取り組むべき課題です。

新年あけまして

おめでとびなごます

新春にあたり皆様のご多幸をお祈りいたします

政権交代により政策の転換が始まり、そのことへの期待の中で新たな年を迎えました。地方議会においては与野党逆転の中、議論を戦わしています。今後も人に光があたる政治になるよう、私も全力でがんばりますので、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



●自分の命を断つことなく、将来に希望を持って地域の人たちと支え合つていける島根にするために、知事からメッセージを。
知事 若者から高齢者の方々まで生きがいを持つて生きられるような社会を築くということが我々の最も大事な課題。それに全力を尽くしていく。みんなで安心のネットワークを社会として築いていくことが必要で、そのネットワークの目が密になって、目から漏れないように、社会が温かく支えていく体制を築いていくように努力したい。

総務副大臣隠岐の島視察

11月8日(日)、渡辺副総務副大臣の視察に同行し、隠岐の島町に日帰りで行きました。この目的は、JAL再建にあたり地方空港の状況調査と、過疎法の今後についての調査として離島隠岐の状況視察です。

出雲空港では、出雲隠岐便を中心に利用状況について調査しました。出雲隠岐便の特徴として、20%強が通院に使われています。隠岐病院では対応できない患者は、出雲市にある県立中央病院など本土の病院で受診することが多く、検査や予後の通院、看護の家族の利用が航空機利用の大きな要因になっています。



しいたけ栽培について聞く 渡辺副大臣

隠岐の島町では、松田和久町長も同行され、地元女性グループによる特産品の加工場(株式会社久見特産)、コールセンター企業立地(株式会社CTU)、文化財を活用した地域おこし(国重要文化財の佐々木家住宅)、地元企業による農業参入(株式会社吉崎工務店)を視察しました。いずれも地域の振興にそれぞれ力を持てる力を活かした取り組みで、それぞれの事業立ち上げには行政からの支援が不可欠でした。人口が少なく資本金が集まりにくい過疎地にあつては事業立ち上げへの支援は大きなものがあります。あとは地域振興によつて人口減少をどう食い止めるか、さらにはインターンシップで人口の増加が図れるかです。

9時5分発の飛行機で隠岐へ飛び、14時30分発の飛行機で帰られるまでの5時間余りの早足での視察でしたが、皆さん丁寧に対応して下さい、内容の濃い視察でした。

●地方の声を中央に
民主党島根で各種団体に出かけ聴取した政府への要望をまとめ、11月24日に小室寿明議員を紹介議員として民主党に提出しました。内田敬県連代表はじめ私や県内議員総勢5人で国会に出かけ、高嶋良充筆頭幹事長はじめ4人の副幹事長の皆さんに要望内容を説明しました。

高嶋副幹事長は交付税の増額確保の要望については、1兆1千億円を増額する予定で、さらに三位一体改革によつて4兆円削減されたが、財源確保も含め前向きに検討すると答えられました。



11月25日中国新聞に掲載

発行者 角 智子 〒690-0064 島根県松江市天神町132
TEL.(0852)28-8880 FAX.(0852)28-8881
E-mail sumi@tomachan.net
U R L http://www.tomachan.net/

笑顔がつくる、はつらつ島根。

とまちゃん通信

骨髄バンクのドナー登録を

白血病や再生不良性貧血などの病気の非常に有効な治療法として骨髄移植があります。そのためには骨髄液を提供されるドナーの登録が必要で、一人でも多くの登録が待たれています。年齢制限などもあつて、次々と登録がなければドナーの確保ができないという状況です。

骨髄バンクのドナー登録の状況、あるいは啓発普及の取り組みの状況はいかがか。

健康福祉部長 平成21年10月末現在、全国で約35万人、島根県では約2,900人、登録対象人口1,000人当たり9.6人で、全国で4番目の数字。また、骨髄移植希望者は全国に2,679人、島根県では10名。

発展する寧夏回族自治区

10月23日から27日まで、島根県の友好交流提携先である寧夏回族自治区を訪問しました。



王正偉寧夏回族自治区主席をはじめ皆さんと記念撮影

普及啓発には、委託をしている島根難病研究所に置かれている「まごころバンク」の専門職員による学校への出前講座のもとに献血事業とタイアップした登録会などに取り組んでいる。今後も、教育委員会や赤十字血液センターなどと連携をし、ドナー登録希望者の確保に向け普及啓発の充実に努めていきたい。

ドナー登録は、子どもたちをはじめ多くの人たちへの啓発、特に命の大切さやそれをお互いに支え合うことを考える機会となるが、学校教育や社会教育においては、どのように取り組む考えか。

教育委員会委員長 中学校、高等学校では保健の授業や公民の授業を中心に、骨髄移植

寧夏回族自治区は、中国のほぼ中央にあり、自治区としては小さい規模です。島根県では16年前に友好提携を結び、交流を続けています。

特に、植林活動の民間訪問団は毎年のように出かけ、寧夏の植林事業を促進してきました。乾燥地帯ですが、黄河が自治区の中を流れ、灌漑をすれば植物が育つ環境にあり、交流事業によって、自治区の住民の植林意識が高まり、省都である銀川市や周辺の地域は緑豊かな地域となつています。海外からも注目が集まつており、フランスなどからの取材も来るという話でした。

寧夏は昔、チンギスハンに滅ぼされるまでは西夏王朝が栄えたところで、その頃の王陵が今でも残っていて、世界遺産に指定されています。パンフレット

友好の絆を基に経済交流を

寧夏回族自治区を訪問して、友好関係の大きな礎がこれまでの双方の関係者の皆さんの努力によってしっかりと築かれていくというのを知りました。

友好交流が、緑化活動、学術研究、あるいは医療技術の向上に寄与していることなど、さまざま



植林事業にとりくんでこられた王有徳さん(中)

で見ると、砂漠の中に泥を積み上げた腕を伏せたような形のもの、点々と立ち並んでいますが、実際にはその周りには木々が生い茂り、写真とは違う様相でした。これも植林が進んだ結果ですが、世界遺産登録時の元の状況に戻さなくてはいけないのではないかと声

まな面で交流事業が成果を上げています。

また、自治体国際化協会に松江から1名派遣されている職員が現在北京事務所にいる。県から派遣されている1名の職員も来年には北京事務所に派遣されると聞いています。こういふ人たちの活用や、交流によつて培った強い絆を活かし、今後さらに交流事業を進展させていくべきです。

中国などへの輸出を目的に県内の企業、団体等が結びついて効率的に持続的に輸出することに取り組む「しまね食品輸出コンソーシアム事業」を実施しているが、中国市場についてどのように考えているのか。

中国は近年非常に高い経済成長を遂げている。これを背景に中国の個人の所



高層ビルが立ち並ぶ省都銀川市

得水準も向上し、世界各国の企業もこぞ中国への市場参入を加速化させている。県内企業にとつても、ビジネスチャンスはさらに拡大する可能性を持つた市場であると認識している。

県内企業の中国進出はどのような状況なのか、またそれに対する行政の支援としてどのようなことを考えているのか。

島根産業振興財団やジェットロ松江貿易情報センターと県は連携し、投資や貿易に関する

流提携している寧夏大学、中国と日本の合弁企業などの視察をすることができました。



角 智子のホームページ
http://www.tomachan.net/
インターネットをご利用の方は、ぜひホームページものぞいてみてください。このおたよりも掲載しています。また、2~3日に一回は更新するブログには、その日の出来事を綴っています。ぜひご覧ください。

寧夏回族自治区は、経済成長を続けており、消費市場として将来性の高い地方都市であり、相互の訪問の機会を活用して、双方で商品フェアの開催をするなど、厚い友好関係をともに、経済交流を進めていくべきではないか。

知事 お互いに親密感も増してきている上に立ち、経済的な交流も検討していく必要がある。そういう可能性について探つていきたいが、他方で経済となると、ビジネスの世界であり、そういうことも調べながら、経済交流の拡大の可能性についても引き続き検討したい。

次回2月定例議会は2月24日(水)から3月17日(水)までの開催予定です。一般質問は3月2日から5日、二問一答による質問は8日の予定です。お時間のある方はぜひお出掛けください。詳しくは、事務所までお問い合わせください。

角 智子のホームページ
http://www.tomachan.net/
インターネットをご利用の方は、ぜひホームページものぞいてみてください。このおたよりも掲載しています。また、2~3日に一回は更新するブログには、その日の出来事を綴っています。ぜひご覧ください。